

No.13

自画像

Self-Portrait

表面の目鼻立ちだけでは、
人物を表現したとは言えないと思っている
表面の皮だけが、人間の全てではないから……
実際に描かなかったとしても、
皮をめくれば、筋肉や骨があり、
温かい血液が流れている。それ以外にも……
つまり、一つの存在を認識しているかが問題なのである
そんな意識がある、より本物に近づけられる

ただ書いた線と、
何かを感じて表現しようとした線は違う
「描く」というのは、そういうことだ
形・明暗・質感・空間・色、
そこに実在するという存在感、
全てに、感受性を発揮して表現すれば、写実描写となる
自分が何かを感じて描いていなければ、
その絵を見る人も、何も感じないだろう
このプロセスの順を追うと、

- ① 題材を心に焼き付ける
- ② その感じたことを紙に写す
- (③ 個性を発揮するのであれば、そこから離れていく)

現実の世界は、全てがそれほど美しいというわけではない
題材からどう離れていくかが、作家の個性的な表現となる